【週刊タバコの正体】

Vol.28 第5話～第7話

2014/05　和歌山工業高校　奥田恭久

■Vol.28

(No.383)　第5話　タバコの現実

－タバコの怖さを思い出してほしい。

写真は、フロリダで幸せに暮らしていた親子です。撮影された１９９９年３月２９日には、息子を片手で抱きあげた精悍な父親のブライアンが映っています。しかし、４月２日に肺がんを発病、下の写真のような姿となり、たった２ヶ月後の６月３日に亡くなりました。５月１０日に３４歳になったばかりでした。

とても同じ人だと思えませんが、１３歳から吸い始めていたタバコが、彼の人生をたった３４年にしてしまい、家族から父親を奪ったのです。

これがタバコの現実です。

(No.384)　第6話　タバコ病と死亡者数

－タバコさえ吸い始めていなければ...。

タバコを吸い続けると喫煙者の身体は少しずつダメージを受け、さまざまな病気になる確率が大きくなります。その病気の種類はざっと次の表のとおり。こんなに色んな病気になる可能性があるのです。

そして、その病気が原因で死亡する人は下のグラフのとおり、男女合わせて年間１０万人を超えるまでに増加しています。厚生労働省の人口動態統計によると２０００年度の全死亡者は約１００万人だそうです。という事は死亡者のうち１０人に１人はタバコのせいで亡くなっていることになります。こんなに多くの命を奪っているのだと思うと、これ以上タバコを吸う人を増やしてはいけません。

(No.385)　第7話　近くで吸わないで

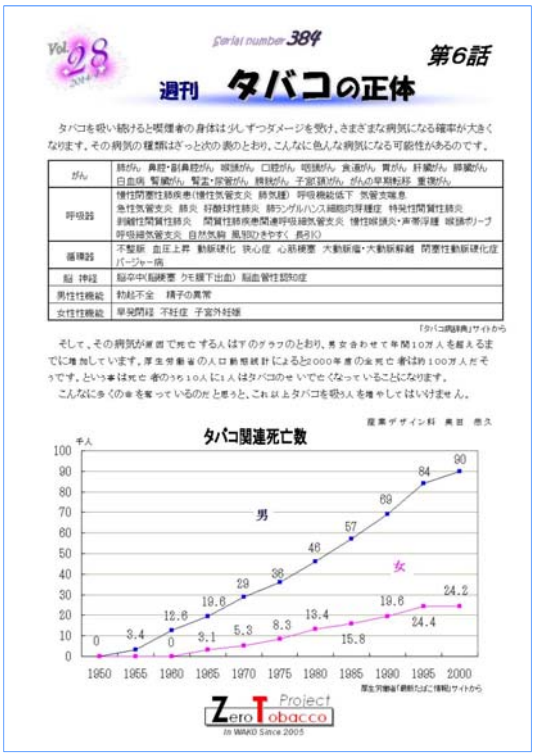
－くすぶり続けるタバコの煙は予想以上に危ない...

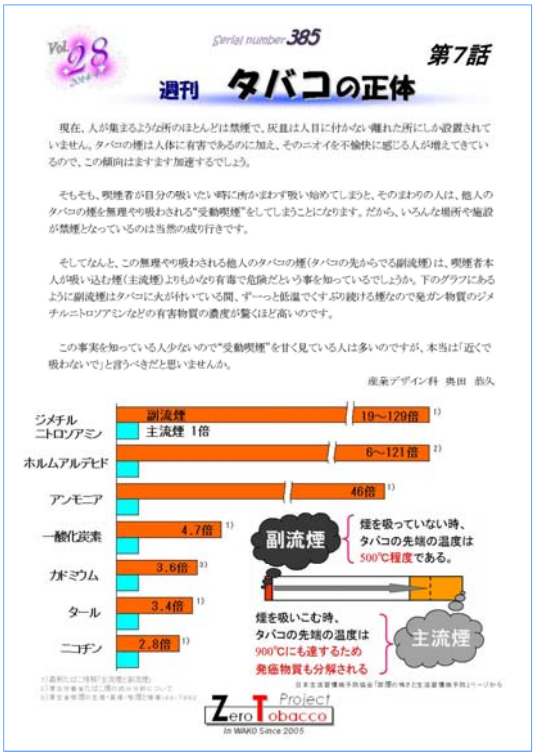
現在、人が集まるような所のほとんどは禁煙で、灰皿は人目に付かない離れた所にしか設置されていません。タバコの煙は人体に有害であるのに加え、そのニオイを不愉快に感じる人が増えてきているので、この傾向はますます加速するでしょう。でも４０～６０mg（タバコ２～３本分）で致死量に達するそうです。

そもそも、喫煙者が自分の吸いたい時に所かまわず吸い始めてしまうと、そのまわりの人は、他人のタバコの煙を無理やり吸わされる“受動喫煙”をしてしまうことになります。だから、いろんな場所や施設が禁煙となっているのは当然の成り行きです。

そしてなんと、この無理やり吸わされる他人のタバコの煙（タバコの先からでる副流煙）は、喫煙者本人が吸い込む煙（主流煙）よりもかなり有毒で危険だという事を知っているでしょうか。下のグラフにあるように副流煙はタバコに火が付いている間、ずーっと低温でくすぶり続ける煙なので発ガン物質のジメチルニトロソアミンなどの有害物質の濃度が驚くほど高いのです。

この事実を知っている人少ないので“受動喫煙”を甘く見ている人は多いのですが、本当は「近くで吸わないで」と言うべきだと思いませんか。





毎週火曜日発行

Zero Tobacco Project In WAKO Since 2005

URL：http://www.jascs.jp/truth_of_tabacco/truth_of_tabacco_2011.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のＨＰでご覧下さい。

※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。